

ある日突然、妻に、「私が闘病中に、あなたが感じたこと思ったことを書いてちょうだい」といわれました。全く突然のことで、困りました。忘れたかったからです。そんなことを書いてどうなるんだとも思いました。でも、パパの体験を聞きたい人がいるんだといわれ、質問に答える形式ならできると答えました。そして、こうして書いています。

当時は子供の入院がすごく多くて、妻の心療内科通院も多くて、また病院から聞いた妻の自殺未遂などの話もびっくりすることばかりで、本当に困ったなあとそればかりでした。あの時期は本当にこれからどうなっていくのだろうという不安で一杯でした。

なぜ戦争ない平和な時代にこんなことになるのだろうと不思議に思いました。

近くに相談できる人がいませんでした。会社でも、まわりで嫁がそんな状態のひとなんていなかったし、とても友人に話せる話題でもなかったので、誰にも話しませんでした。

妻は私にとでもつらく当たりました。どうしてこんな目に遭わなければならないのかなーと思いました。私も人間ですのでストレスは相当たまっていました。そのストレスのはけ口にサッカーをよくみていたきがします。

それがまた妻の逆鱗に触れて、どんどんわるい方向へ進んでいった気がします。

妻の状態を考えると、子供へ申し訳ない気持ちで一杯でした。子供のためにも、はやくなかよく健康で家族が暮らせればいつも神棚に祈ってました。(いまでも・・・)でも、具体的にどうしたらいいのか分かりませんでした。

そのうちにどんどん妻の調子は悪くなり、とうとう入院になってしまいました。

(続く)